

# Primula

PRIMULA CUNEIFORIA BULLETIN

89

Primula

発行所: 東京都八王子市散田町3-38-6B [primula.ac@gmail.com](mailto:primula.ac@gmail.com) <http://primula.mizunodesign.com>

プリムラ山の会(通巻89号) 2013年2月6日発行 発行人: 大坪和久 編集/デザイン: ミズノデザイン

# Contents

|                                                               |     |
|---------------------------------------------------------------|-----|
| クーロワール・・・・・・・・・・・・・・・・・・                                      | 002 |
| In A Shot (岡 孝雄)・・・・・・・・・・・・・・・・                              | 003 |
| 89号のお題 あのところ、私は若かった。・・・・・・・・                                  | 004 |
| これはメジャールートかな？                                                 |     |
| ー瑞牆山大ヤスリ岩ハイピークルートー初鹿 裕康・・・・・・・・                               | 006 |
| 小川山ガマルート他の登攀 佐藤 正俊・・・・・・・・                                    | 007 |
| 九十九谷（くじゅうくたに）右岸尾根                                             |     |
| 西上州／黒滝山付近(市瀬 江利子)・・・・・・・・                                     | 009 |
| マイナールートは楽しいニャン＝^＝その5                                          |     |
| 西上州・九十九谷右岸尾根の巻 初鹿 裕・・・・・・・・                                   | 011 |
| 明星山 P6 南壁左岩稜の登攀 佐藤 正俊・・・・・・・・                                 | 012 |
| 富士吉田の馬返しから、初冬の富士山日帰り 佐藤 正俊                                    | 014 |
| ハヶ岳・杣添尾根から横岳 平 真里・・・・・・・・                                     | 016 |
| 年越山行 越沢バットレス 桜井 弘・・・・・・・・                                     | 018 |
| 積雪期のマイナールートも楽しいワン U <sup>^</sup> E <sup>^</sup> U その10ーハヶ岳天狗岳 |     |
| 東壁正面左尾根?の巻ー 初鹿 裕康・・・・・・・・                                     | 019 |
| 子連れハイク（12ヶ月～15ヶ月）・・・・・・・・                                     | 020 |
| 景色を見ながら！・・・・・・・・・・・・・・・・                                      | 023 |
| なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記                                       |     |
| もはや病み上がりではない (1)・・・・・・・・                                      | 025 |
| 山行一覧・・・・・・・・・・・・・・・・                                          | 027 |
| 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・                                          | 028 |

# クローワール Couloir

## あの頃僕は若かった

若かりし頃は、とにかく予定したルートは登りたいというのが先にたち、結構突っ込んでいった気がする。夏のチンネでは「明日は天気が悪いから」と、小雨の中、強引に突っ込んで行った。結局、土砂降りになり、ガスの中着の身着のままビバーク。翌日はなぜか、ど快晴だった。

冬の十文字峠越えでは、わかんも何も持たずにラッセル。十文字小屋の親父に「時間かなりかかるよ」と注意されたのに突っ込んで、避難小屋についたのは夜 10 時を過ぎていた、登山靴も凍ってた。

山に行きたい、あのルートを登りたいという一心で、突っ込んでいって痛い目に遭うって言うのも、若さゆえの特権だったかもしれない。「引き返すのも勇気です」ってなんだった感じだった。体力があって、山の怖さも知らないから、こんなもんだと思い、多少痛い目にあっても何とか耐えたし、なんとかした。

何も考えず突っ込んでいくのは、ちょっとスポーツ的な発想が入っていたのだろう。雨でも普通に登れなきゃと思っていた。

今は、雨でも何でも登れなきゃいけないなんてことは考えない。晴れた日に気持ちよく登ればいい。わざわざ雨や吹雪の日に突っ込んでいくななんて無謀でしかない、と思う。ただ、山の中で突然の雨や吹雪になったときには、それに対応できるだけの力は必要だ。何かの理由でトラブルになることもある。そんなときにも平常心で対応できる気持ちと精神力は、若いときよりも身につけている気がする。それが経験というものだろう。

今は山を楽しむということが、山登りを長く続けていく上で、一番大事なことだと思っている。無理はしない。でも、どこで引き返すか、その微妙なところが山の難しさでもある。いつも引き返していたのでは、いつまでたっても登れないから。

山に行くことが楽しいのは今でも変わっていない。それも一緒に行くメンバーやパートナーがあつてのことだろう。

# In A Shot

by Takao Oka



「岩稜・雪稜」 ガンドルバチュリ (6248m) 2012.10.28撮影

アンナプルナ山群の山旅 岡孝雄

2012年10～11月にかけて3週間程、岡にとっては初めてのヒマラヤを経験しました。

今回も写真撮影が目的のため、日程的にも余裕を持たせ、宿泊は全てロッジ泊となりました。

そのため高山病にもならず(アンナプルナBC4130m)食事以外は快適に過ごせました。

寒さはほとんど感じることなく、日中の急なトレッキングコースだと汗ばむほどでした。

お金と時間をかければ、こんなにもいろいろな体験ができるものですね！

人類として初めて到達した8000m峰のアンナプルナⅠ峰(8091m)を正面に望むBCは各国のトレッカーが多く訪れ、クラス別はあるもののロッジが多数あります。(物資を担ぎ上げるポーターの存在を抜きには考えられませんが、この地に生きる人たちの生活基盤ともなって

いるのです。)また多くのトレッキングコースも日本でいえば一級国道です。(物資の輸送・古くからある生活道・急な山間部落を最短距離で結ぶ等)

憧れを持っていたアンナプルナⅠ峰南壁は意外と迫力がなく、これで標高差4000mなのか？と感じられました。大きな尾根が少ない屏風のような地形と、太陽の差し込む角度が正面すぎることに原因がありそうです。南壁の初登フランス隊はどこを登ったのかなどと思い探しましたが、壁の弱点を見つけられずに終わりました。ヒマラヤは大きいな！周囲を見渡せばズッシリとした山が多い。岡個人としてはあまり写欲を感じさせませんでしたが、BCの南や遠方のアンナプルナⅢ峰(7555m)とマチャブチャレ(6993m)の間にあるガンドルバチュリ(6248m)は大いに気に入りました。岩稜と雪壁、天を衝くピーク。岡の思っている山がありました。過去には名前は知っていた多くの山を身近に見ることができ(写真的には今一ですが)中高年の生活をエンジョイした山旅となりました。

## 89号のお題

## あそこ、私は若かった。

大キジに行ったメンバーがいそうなところを狙って、ロケット花火を打ち込む(なんでロケット花火を持ってる?)。帰りの夜行列車の中で寝ているメンバーがいたら、マジックで顔にいたずら書きをする(なんでマジックを持ってる?)。くだらないけど楽しかった、若かりし頃…。朝起きてトイレ行ったら、〇〇〇にマジックでおはようって書いてあったらびっくりするよね。さすがに出来なかったけど。(H. H.)

あれは大学3年の夏。研究室の先輩から突然白馬に登ろうと言われ、翌日、知り合いから車を借りて4人で出掛ける。一日がかりでようやく白馬の駅に着くと、白馬3山が朝焼けで真っ赤に燃えていた。大雪渓から山頂を往復した帰路、諏訪湖辺りで車検が切れていると警官に車を止められるが、勘弁してもらって東京に帰る。お金が無くても、窮屈な車内でも、車検切れで途方に暮れても、何故か楽しい思い出になっている。(M. S.)

人と日程を合わせて行く短い山行よりは、一人で行く長期縦走を選んだ。そして、それをちょっと得意に思っていた。いまとなっては、単独行は、日帰りくらいが関の山。(M. T.)

入会した頃は当たり前だけど若かった。夜になっての下山や朝帰りも良くあったし、もちろん仕事よりも何よりも山優先。友達づきあいも悪くなった。生活は慌しく、家の中は散らかり放題。つい最近まで、そんな感じだったかな? 落ち着いてしまった今、友達づきあいを復旧作業中。今までとは違う新たな山登りの段階に移行するための、身辺整理というか、長期休暇な感じ。また自分の時間ができたとき、ときめく様な山に登りたいなあと思う。(E.I.)

あれは私が20代前半の頃だ。今でも頑張っている奥多摩の、あの「餃子屋」で飲んだ後に、河原に下りて石ころを25キロ、ザックに詰め込んで石尾根の末端から取り付いて雲取山へ登った思い出が浮かんてくる。無論、尾根の途中でテントを張り、またしても寝る前にビールを飲んだ。翌日はザックの本体が剥離して、仕方なく背負い子にザックを縛りつけてボッカを続行。思い出すと若かったな、と思うのであります。(M. Y.)

20代の頃、2月に北アルプス滝谷の出合の小屋に、一人で泊まって滝谷に登攀した事がある。当然他には誰もいなかった。あんな薄気味悪い小屋で何を思っていたのだろうか。(H. S.)

#### 1984コタキナバル

若い頃、登山を趣味にしてた訳でもなかったが、旅先では山にしっかり登っていた。1984年の年末に、コタキナバルへ大学時代の友人を訪ねた。彼はキナバル山の植生を研究している。その手伝いを口実に山頂まで。サウスピークの尖塔は忘れられない。そして、そのとき同行した女性と翌年、結婚することになる。(K. K.)

今やHるやすさんと並んでカンジ悪い上にモチベーションが低く、たいして仲良くないクライマーにさえ、やる気があるところ見たことないとか言われてしまう私ですが、頑張っているときもあったんですよ。受験生の頃から、例の某有名国立芸術大学に受かったら山岳部に入ろうと思っていました。にも関わらず、山に行くたび絶対やめようと心に決め、下りると忘れて次の山に行くをダラダラやっていたんだけど、2年目の夏の後半が突然なくなり(例年剣定着2週間+縦走2週間ほど)やった！今だっ、と買ったばかりのオートバイに使わなかった2週間分の食料やらエスパースとか山のように積んで、北海道へ1人で出かけしかも2週間のつもりが途中でアルバイトとかしながら1ヶ月半も遊んでしまったツーリングのほうが「若かった」と思う。学費は安かったが山とオートバイは今思えば贅沢だった。あれ？…やっぱりあんまり山は好きじゃなかったようです。

#### 日光・雲龍溪谷に寄せて

此の処気象条件の少し良い雲龍溪谷に通っている。

長い林道を歩きながら、初めて訪れた頃のことを思い出す。

当時はもっと結氷していてダイナミックだったような気がする。

東武山岳夜行だと思ったが、深夜日光駅でポンチョを被り仮眠後、暗いうちに沢通しの道を汗ダクダクで氷の回廊に着き、アイスクライミングの真似事をし(70cmの門田のウッドシャフトピッケル・トップのジュラルミン製10本前爪無しアイゼン使用)先端技術を身に付けたとばかり意気揚々と帰宅したものだ。今ではお笑い物語である。

ピッケルは庭の手入れに成り下がり、アイゼンは左右でジョイントを4回、踵部分を3回無償で交換してもらったものである。メーカーも使用者を実験台にしている時代だったのかもしれない。

車中泊でヌクヌクと惰眠を貪り、整備された林道の長さ文句をつけ、おまけに結氷の状況と光が差さないなどと八つ当たりして、写真にならないなどと言い逃れをしている己の姿をよく観察してみろよ！！

こんなことを思い浮かべながら、下りでも長い林道だった。

当時は確かに若かった！何事も新鮮で探究心もあった。今でもあるはずである。(T. O.)

# これはメジャールートかな？—瑞牆山 大ヤスリ岩 ハイピークルート—

初鹿 裕康



日程:2012年9月29日

メンバー:小堀、初鹿、水野

<コースタイム>

9/29晴時々曇り

登山口(9:00)---富士見平小屋(9:36)(9:43)---取付(11:14)---終了点(14:19)---大ヤスリ基部(15:12)(15:36)---富士見平小屋(16:20)---登山口(16:50)

元八王子バス停で水野を拾う。初日廻り目平、2日目瑞牆の予定だったが、台風接近中で、どー考えても、明日のほうが天気が悪い。小堀さんを、だまらかし、瑞牆の大ヤスリ岩へと変更する。瑞牆の登山口は車で一杯。イヤー、人気の山なんだねえ。富士見平小屋も有人になってリニューアルされていたし。

先行誰もいないので取付でのんびりしようとしていたけど、次のパーティが到着。ありや、ちょっと急ぐか。いらぬ荷物は置いて、残りは私のザックに入れて登る。

水野リードでトライ。1P目、出だし登ってからのトラバースがちょっといや。A0ですかね。ワイドクラックもなんか最初からいやな感じ。背中 of ザックが邪魔だし、いろんなものが引っかかる。A1で行ってしまう。ルンゼを抜けて、フェースに出ると支点がある。でも本当はもうちょっと登ってからの支点のほうがいいのかも。2P目、そこの支点からまたルンゼに降りるところがポイント。アブミを使ってしまえばなんてことはない。ガレた岩の中を登る。広いところに出る手前でRCCボルト2本。ここで、ピッチを切ったが、広いところまで行ったほうがいい。

3P目、ボルトのところから、ちょっと登ると中庭と呼ばれている広いところにでる。ここは気持ちがいいところだ。快適に登る。大テラスに出る前で水野がピッチを切っている。ここも、大テラスまで行こうね。

4P目、右の壁を人工で登り、大テラスに出てから人工ピッチへ。チョックストーンを踏み台にして最初のA1。ちょっと遠いので小堀さんに代わる。アブミの掛け替えでひたすら、まっすぐ登る。サードは呑気でいい。頂上で休憩してから、大テラスまで懸垂。ここから左に10m懸垂すると登山道。

高度感有り、景色はgoodの好ルートでした。自身1500回目の山行。



# 小川山ガマルート他の登攀

佐藤 正俊

日時:2012年9月29日(土)~30日(日)

メンバー:平、佐藤

(小堀、初鹿、水野は別行動で瑞牆山の大ヤスリ岩)

[行程]

28日:22:30池袋発(佐藤号)、1:00廻り目平着、テント泊

29日:8:00出発、8:30ガマスラブ練習、9:30ガマルート登攀、  
11:00ガマルート終了、12:40マラ岩、川上小唄登攀、15:30小  
川山レイバック下見、17:00ナナーズで集合、廻り目平でテ  
ント泊

30日:台風の接近により、9:00小川山発、昼ごろ東京着



ガマルートの登り口

## [久しぶりの小川山]

大型台風が接近する中、久しぶりに小川山に行く事となった。初日は小堀、平、佐藤と初鹿、水野で別行動の予定であったが、1日目に小堀、初鹿、水野で大ヤスリ岩に登り、その後、平、佐藤と合流する事となった。

小川山には十数年以上前に知り合いのプロガイドの案内で2~3回行っているが、長いブランクで全く忘れており、ガマスラブで大分難儀した記憶がある。広い小川山で迷わずに取付きに辿り着けるかどうか相当怪しそうな気がしていた。

## [ガマルート他の登攀]

前夜の到着が午前1時を過ぎていたので、土曜日はやや遅めの7時に起床する。睡眠時間は約5時間。朝食後、平、佐藤のコンビでガマスラブに向かう。慎重にトポを辿ったお蔭が全く迷う事無く8時半にガマスラブに到着し、まずは一安心。

ガマスラブは大盛況で、唯一空いていた左端のスラブは以前トップロープで登れずに泣きを入れた壁のような気がする。ともあれ足慣らしのため佐藤リードでスラブに取付く。

「スラブは手懸りが無くともフリクションが効くので落ちるはずがない」と自分自身に言い聞かせ、白いバンドの急傾斜を乗越えて1本目のピレーを取り、終了点までランナウトしてトップロープをセットする。結構怖かったがやれば出来るジャンとホッとする。これならガマルートも大丈夫そうだ。平ちゃんのトップロープ練習の後、ガマルートに移動するとまだ誰も取付いていない。何とラッキー！！

平ちゃんにリードを打診するが、あなたが行きなさいという指示があり、佐藤が1ピッチ目をリードし、後はツルベで登攀を続ける。3ピッチ目を終えても誰も登って来ない。ラッペル支点もしっかりしており、このまま下降も出来そうだ。

抜けるような青空の下、中間の樹林帯を越え、6ピッチ目ガマグチ型ルーフの下でピッチを切る。この岩は、まるで大ガマが空を見上げている様に見える。

このピン無しの大ガマ(5.7)で平ちゃんが少し苦戦していたので「ダメなら降りてもいいんじゃない?」と声を掛けるが、「もう戻れない!!!」と根性で登り切り、11時にガマスラブの終了点に到着する。

そのまま来た道を懸垂すると、樹林帯で4~5パ



ガマルートの2ピッチ目

ーティーが登って来てチョット驚き!! 誰も登って来ないと勝手に思い込んでいたが、やっぱり初心者向けの人気ルートだったと認識を新たにす。幸い渋滞待ちは5〜6分で終わり、最後は1〜2ピッチ目のスラブを懸垂下降して無事取付きにご生還。ガマルートの1ピッチ目で相当に苦労しているおじいちゃんパーティーとすれ違い、これで本当に大丈夫かなと心配になる。

昼食後、マラ岩に移動するところでも大盛況。昔、トップロープで半分までしか登れなかったレギュラー(10b/c)を改めて眺めてみると、コリャ〜ととっても登れそうな気がしない。ギャラリーも多くかなり順番待ちもありそうな事を言い訳に、誰もいない川上小唄(5.8)をブリクリップ拝借で佐藤リード、平フォローで登攀する。下降時にブリクリップの持ち主が現れ、かなりドキドキと動揺してしまった。

最後はギアをテントに残置し親指岩の小川山レイバック(5.9)に行ってみる。予想に反してレ



ガマルートの終了点



6ピッチ目のガマ岩?

イバックには誰もおらず、これなら少し登って感触を探る事が出来たかなと悔やむが、ナナズの集合時間も近づいている。アプローチシューズで2mほど試登していると、平先輩から危ないから降りなさいとの指示があり小川山レイバックを後にする。

小堀、初鹿、水野と合流後の宴会は盛り上がり過ぎて、午前零時過ぎに隣のテントから注意される。

翌日は大型台風が関東地方を通過し、暴風雨で中央高速も止まる恐れがありそうだとの事で、後ろ髪を引かれる思いで好天の廻り目平を朝9時に出発する。

### 【感想】

長いブランクのため不安だったスラブ登りもクリアし、真っ青な青空の下、思った以上に快適にガマルート、川上小唄の2本を登れてとても楽しかった。心配していた岩場までのアプローチも慎重にトポを辿って全てオンサイト出来た(当たり前か?)。

瑞牆山、大ヤスリ岩の人工登攀も結構面白かったとの事なので、今度は是非大ヤスリ岩にも行ってみたい。

レギュラーと小川山レイバックの宿題を解決するためには、少し気合を入れてトレーニングしなくっちゃと実感する1日となった。

# 九十九谷（くじゅうくたに）右岸尾根

西上州／黒滝山付近

市瀬 江利子

日程：2012年10月23日

1/25000地図：荒船山

メンバー：初鹿、市瀬

<コースタイム>

登山口(9:30)---右岸尾根終了点(11:00)---馬の背(11:30)---

-集落(12:00)



下の集落にいた豚さん達

簡単なバリエーションに行きたいと希望していたところ、どこから見つけてくるのか、はっちゃんが、またまた超マイナーなルートを探してきた。場所は西上州。黒滝山南側にある九十九谷。九十九谷は黒滝山登山口に向かう途中、上底瀬と下底瀬の中間地点にある。パーキングは九十九谷登山口の道路左側のだだっぴろい空き地。こんな場所に平日に登りにくる登山者はもちろんいないので、ぼつんと車を止める。

九十九谷への登山道はそこからほんの数十メートル下った沢沿いから入っていく。そして、右岸尾根は登山道に入ってすぐに左の尾根上へと急な踏跡を登っていく。尾根末端を回りこむようにして、踏み跡は不明瞭になり、はっちゃんはブッシュを掴みながら直登。しかし、結構急で、落ちたら怪我は間違いないので、私はロープを出してもらう。やっぱり西上州をなめたらいかんな、と思う。ここから先は笹藪の中の踏み跡を拾う。暫くすると笹藪は切れ、尾根となる。ところどころ、尾根の右側がスパンと切れているので、気を抜けない。難しくはないけれども、一歩、間違える

と、確実に命を落とすのが西上州の怖いところ。対岸の岩稜も西上州ならではの景色で、素晴らしい。ところどころ、紅葉している葉も見られる。

さて、暫く行くと岩峰らしきものが現れる。登山靴のまま、ロープをつけて、はっちゃんリード。直登するのかなと見ていると、15mほど登ったところから、左に大きく巻き、その後見えなくなってしまう。私はこの間、私の周りを飛び回る、スズメバチらしき蜂が気になって仕方が無い。私を偵察に来ているのか、ブーンという羽音をさせて、周囲を飛び回っている。しかも、今日は黒のTシャツを着てきてしまったことに気づく。しまった、熊と間違えられるかも。この近くに巣があるのかもしれない。と、気が気ではない。確保のロープを少しづつ伸ばしていったん岩の末端から離れてみると、蜂はいなくなってしまった。などと、一人でごちゃごちゃとやっているうちにコールがある。ロープもほぼいっぱい。

さて、蜂の巣がないか、確認しながら、慎重に登っていく。直登するように見えた箇所までくると、全く手がなく直登は難しいことがわかった。ここ



西上州独特の山容

は左手にあったブッシュに手をいっぱいいっばいに伸ばし、やっとこさ掴んでパワーで登り、ブッシュの間をトラバース。そこから岩とブッシュのミックスを登って行き、最後の壁を木を掴んで脇から乗り越すと、ロープを使う箇所は終了。後は急な斜面をブッシュを掴みながらどんどん登っていくと、馬の背へと続く登山道へとたどり着く。

馬の背は一般ルートらしいが、結構怖い。切れ落ちた両側の景色に足がすくんでしまう。馬の背の手前からは、鎖やら梯子やらがあり、ステップも切っただけだが、チョイがけをしながら慎重に降りる。何も持っていなかったら相当怖いと思う。



馬の背。この上部が結構怖い

馬の背には柵があるが、かなりスリリング。ここを抜けると、上底瀬へと繋がっている林道へとぶつかり、後はのんびり下るだけ。久々に、山らしい山に登れて大満足でした。しかも、雨が降り出す前に下山することができました。結局、この日は登山者には誰とも会わずじまいでした。

余談ですが、この後、南牧村の役場に行き、「なんもくトレッキングガイド」をもらってきました。南牧の12山がトレッキングルートと共に事細かに載っているので、結構貴重な資料になると思います。「冬でも積雪に見舞われることの少ない低山が連なる南牧村の山々は、一年中山登りが楽しめます。岩登り、滝ありとバラエティーに富んだコースでトレッキングの魅力がたっぷり味わえます」とのことです。



「なんもくトレッキングガイド」

# マイナールートは楽しいニャン=^\_^= その5 西上州・九十九谷右岸尾根の巻

初鹿 裕康

日程:2012年10月23日

メンバー:初鹿、市瀬

&lt;コースタイム&gt;

10/23曇/雨 駐車場(9:15)---第1岩場(10:01)---稜線(11:13)---林道  
(11:41)(11:58)---駐車場(12:19)

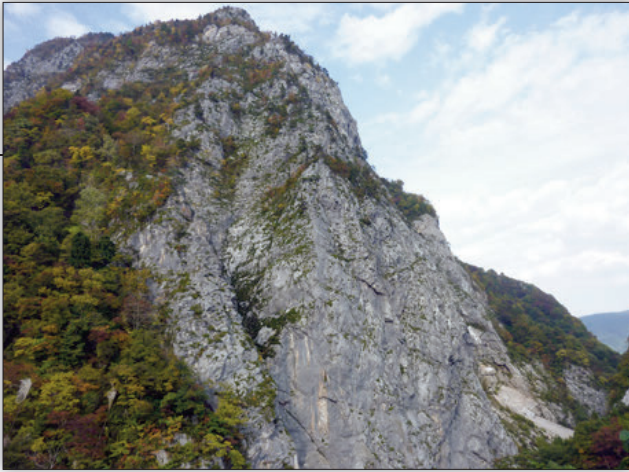
秋の天気の良い一週間なのに、この日は低気圧と前線が通過するとかで、日本国中大荒れらしい。降雨予報を見ていると、なんとなく西上州あたりは、唯一降雨がないかも…。と、儚い期待を込めて、井荻を6時出発。東京はまだ降っていない。途中、ぽつぽつと来たが現地に入った時には、うっすらと陽も差している。やっぱ現地入りしないとわからないもんですね。

右岸尾根は登山道からすぐに、ブッシュ交じりの急な斜面に取り付く。私先行で登っていく。ERIKOさんが「ちょっと登れないよ」と言っているの、ザイルをたらず。直接腰に結ぶと言っているが、何結び？ブーリン…知らないか。ブーリン結びアルパインでは便利なのになあ。まあ、ザイルを出したらなんてことなく登ってきた。ここで早速登攀具を着ける。笹藪の中の踏み跡を登っていくと、すぐに第一岩場。せっかくザイルを持っているので、岩場を登るがとっと左に巻きすぎて、いまいち面白くなかった。右側は下部が切れ落ちている感じで面白そうなのだが、ピンとか見当たらなかったの…。

九十九谷の岩場は上から見た感じ、すごいところ。日本という感じではない、4級ぐらいのルートもあるみたいなので岩さえしっかりしていれば、面白そうだが、なんせ西上州だからなあ。中間の岩場も木をつかみながらザイルを出さないまま、ルンルン登る。時折陽も差すが、さすがにそろそろ雨が降ってきそう。あんまりゆっくりしている余裕はない。気がついたらあつという間に稜線登山道。なんだあつけない。コースタイム3時間と書いてあつてしかも結構ザイル出したりしてゆっくり登っていたのに、早。

稜線から馬の背に下る。ここからが結構鎖場、はしが続いて、スリリング。一般ルートにしては結構怖いと思う。楽しいけど。鎖もはしも微妙に古くて、グラグラしたりしている所が怖いね。峠に着くあたりで雨が降ってきた。峠からは砂利道の車道を駐車場に向かって傘を差しながら下ったのでした。

# 明星山 P6 南壁左岩稜の登攀



明星山南壁

佐藤 正俊

日時:2012年10月27日(土)~28日(日)

メンバー:佐藤ほか3名

[行程]

26日:22:30東京発、関越・糸魚川経由、2:00翡翠峡駐車場テント泊

27日:6:30発、7:00取付き、12:00終了点、16:30青木湖で泊

28日:7:00起床、ゆーぶる木崎湖(7~21時営業、600円)入浴後、帰京

## 小滝川翡翠峡展望台の駐車場まで(10月26日)

今回は救助隊メンバー他の4人で、明星山左岩稜にチャレンジする事となった。明星山はクライマーからは「みょうじ」と呼ばれているそうで、左岩稜は明星山南壁の入門コース、アプローチも至近の超人気ルートである。

天候に一抹の不安もあったが、金曜の夜にUリーダーの車にピックアップしてもらい関越、糸魚川経由で高速をひた走る。途中でアルコール類を調達し午前2時に展望台駐車場に到着する。東京から4時間程(チョット飛ばし過ぎ?)で着いたが、目の前には黒々とした南壁のシルエットが立ちほだかり、いやが上にも胸が高鳴る。幸い駐車場はガラ空き、明日は順番待ちが無いかも?の甘い期待とは裏腹に、Uリーダーからは明朝5時半の起床が告げられる。睡眠時間は僅か3時間、速攻で飲んでの就寝となる。

## 【明星山P6南壁左岩稜の登攀】(10月27日)

深夜運転の疲れも癒えぬままアッと言う間に起床時間となる。身支度を整え牛丼と酸辣湯麺(結構イケます)で朝食を済ます。食後のお茶を沸かしているとUリーダーから「水野さんから聞いたけど佐藤さんは番頭さんと呼ばれてるんだってネェ」と言われてしまう。

(\(\times\times\)/そんな事まで言わなくてイイのに...)

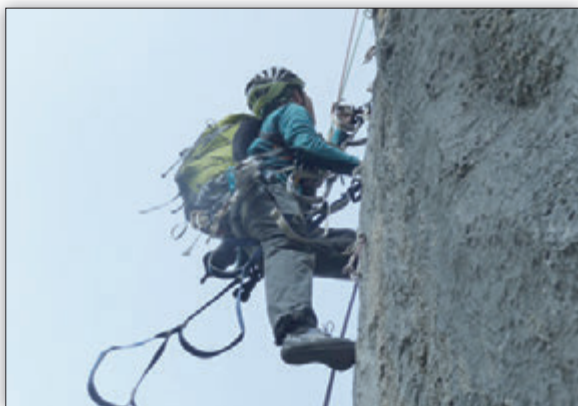
既に2~3パーティーがマニフェストやフリースピリッツに向かい、我々も6時30分に出発する。急坂を下り小滝川を渡ると一番乗りで取付きに到着。アプローチは僅かに10分。しかし何とTさんがクライミングシューズを忘れたと言い出し、Uリーダーのスペアシューズを取りに車に駆け戻る(Uリーダーはスペアヘルメットも常備との事)。

そうこうしている間に取付きには3~4パーティーが辿り着き、順番が遅れやしないかと気を揉んでいる最中、Tさんが戻って来る。そして一番でUリーダー、Sさん組が取付き、佐藤のリードでTさん、佐藤組も7時頃に登攀を開始する。

1ピッチ目のバルジ状の岩壁は大分濡れており、草付きの泥で靴底も滑るため、寝ボケた身体を揺りほぐすよう慎重に支点を取る。2ピッチ目はTさんにお任せして、垂壁下部のビレーポイントに辿り着く。

今日は天気も良く周囲の山々は少し早い紅葉に包まれている。この辺は垂直でかなり高度感もあるが、岩が結構しっかきりしてとても気持ちがいい。取付きからは続々と後続のパーティーも登って来る。

核心の3ピッチ目人工登攀は佐藤のリードとなる。リングの取れたボロボロのボルトラダーの脇に新しいハンガーボルトが連打されており、核心のピッチは簡単に終了してしまう。Uリーダーの5~6m下でピッチを切り、Tさんをビレーしていると、後続のパーティーも追い付いてくる。関西から5人で来た



3ピッチ目のSさん

のだそうだ。

実質的な登攀は5ピッチ目で終わり、終了点の南稜大岩までは3級程度の簡単な岩稜登りとなるが、後続は全く姿を消してしまう。3ピッチ目の人工登攀で相当渋滞したようで、ノンストップで通過した我々は少しばかり優越感を感じる。

大岩直下は右側のディエドルを登り、12時少し前に終了点に到着する。ギア類をしまっているとしてTさんのシューズがリュックから出てきたとの事、出だしの失敗も見事解消され目出度し目出度し。

大岩からは非常に脆い左ルンゼをトラバースして松の木テラスに辿り着く。そこから先は下降路に沿ってガイドロープが張ってある。急傾斜の下降路だが、道に迷う心配が無いので安心して下れる。ガイドロープが途切れた先は踏み跡もしっかりし、赤テープに導かれて程なく水道管のある林道末端に到着する。

地元では水道管橋の上を渡るクライマーの評判がよろしくないとの事なので、紅葉の中、少し遠回りの林道を辿って小滝川に架かる橋を渡り1時15分に駐車場に戻る。

展望台からは左岩稜の渋滞を避け左フェースを登る6人組のパーティーや、マニフェストの上部と下部を登るクライマーの姿がクッキリと望まれた。

登攀後は車で青木湖キャンプ場へ移動し、4畳ほどの広さのバンガローを借りて楽しく賑やかな夕食、祝宴となる。順番待ちの渋滞も無く、天候にも恵まれ本当にラッキーな登攀だった。これも日頃の行いが良いためと自画自賛するが、日曜の天候悪化を嫌って大半のクライマーが敬遠したのも事実かもしれない。夜半からは雨も降り出しバンガローの有



4ピッチ目のUリーダー、Sさん

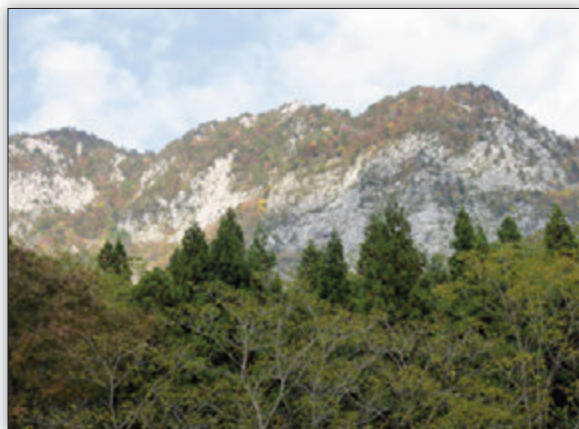
難さをシミジミ実感しながらの就寝となった。

翌日は小雨が降りしき中、8時過ぎに出発し、朝から営業の「ゆーぶる木崎湖」で入浴、道の駅大岡特産センターで美味しいお蕎麦を食べ、ゆったりとドライブしながらの帰京となった。しかし明星山は本当に遠〜い所でした。

#### [感想]

初めて見る明星山南壁は、石灰岩の白い岩肌が印象的な美しい岩壁で、谷川岳衝立岩正面壁の1.5倍位の圧倒的な大きさとクライマーの登攀意欲を掻き立てる。明星山南壁の右奥上部には南壁フランクもそそり立っており、一ノ倉沢のコップ状岩壁にもロケーションが良く似ている。

今回登った入門コースの左岩稜は、悲しいかな南壁の僅か半分位までしか到達していない。南壁を最上部まで登り切る、フリースピリッツやマニフェストという新たな目標を強く意識する山行になりました。来年は是非誰か一緒に行きましょう！！



明星山

# 富士吉田の馬返しから、初冬の富士山日帰り



山頂直下の鳥居

佐藤 正俊

日時:2012年11月10日(土)

メンバー:平、佐藤

[行程]

9日:21:00佐藤車で池袋西口発、22:30富士吉田馬返し駐車場  
で車中泊

10日:3:00起床、4:00馬返し発、6:00五合目、11:40山頂、15:00  
五合目、16:00馬返し着(行動時間は約12時間)、入浴、食事後  
に帰京

## 【馬返しまで】(11月9日)

今回は長年の懸案だった冬季の富士山頂日帰りに、平ちゃんと二人で行く事となった。

思い起こせば二十数年前の12月末、3人で富士山に登った際に8合目の下りで滑落停止練習をして止まらなくなり、アイゼンを引っ掛けてようやく九死に一生を得て停止した。それ以来、もう一度冬の富士山に登らなければならないと、ずっと思っていた。

そもそも12月の富士8合目でロープも結ばずに滑落停止練習をやったこと自体が言語道断の行いであった(ロープを結んでも8合目では決してやってはいけませんが・・・)、今回は当然、不屈きな滑落停止の練習などは一切せず安全に山頂を往復し、富士山に対する恐怖心を克服する事が最大の目的である。

1人でも行こうと思っていたところが、平ちゃんと2人の心強い山行となり、微かな決意を胸に秘め、池袋西口を出発した。今回は高速も順調で、東京から約1時間半で馬返しに到着した。

## 【富士山頂の往復】(11月10日)

日帰りで山頂を往復するため午前3時に起床し、朝食を済ませ午前4時に馬返しを出発する。念のためロープ、ハーネス、ヘルメット、ツエルト等を持参しリュックは10数キロを超える重さで、睡眠時間も

4時間と少なく高度障害が気になるが、満天の星空で風も無い。幸先の良い出発と自分自身に言い聞かせる。

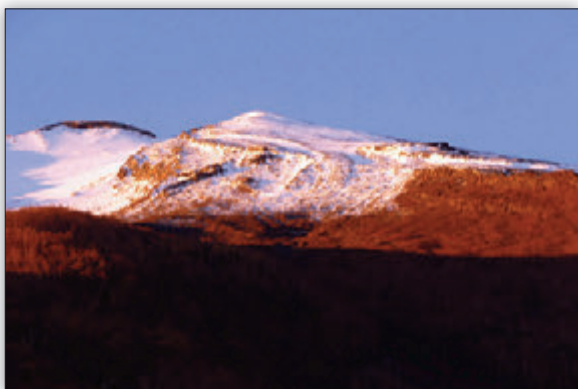
5合目までの樹林帯は2時間程で通過し、佐藤小屋の辺りの朝焼けで富士山頂が赤く輝き始める。先週の八ヶ岳トレイルの影響か、両足のアキレス腱とふくらはぎには鈍い疲労感があり、背筋には一昨日のボルダリングの筋肉痛が残っている。しかしながら心が洗われるような素晴らしい光景に癒され、気分は高まっていく。

スバルラインの5合目から来たらしい登山者が我々以外にも十数名、5〜6パーティーが登っており、こんな時期でも意外に登山客が多い事を知る。7合目からは岩場と氷雪ミックスの登りとなり、二人ともアイゼンを装着する。

8合目からはアイスパーンとなり、3200mの白雲荘を超えるあたりからは空気も薄く、息遣いも荒くなる。折から北風にも煽られ強烈な冷氣の中、苦しい登高が続く。

9合目の鳥居前後は最も傾斜が厳しく強風で体温を奪われるため辛い登りとなったが、一步一步アイスパーンにアイゼンの爪を蹴り込みながら慎重に高度を稼ぎ、11時40分によりやく富士山頂に到着する。

山頂小屋の間で風を避けようやく一息入れると、広大な富士火口の反対側に最高峰の剣ヶ峰や測候所跡も良く見える。360度、遮るものの無い絶景の下、



5合目からの朝焼け

抜けるような空は青黒く輝いていた。

下りで最も危険な8合目までのアイスバーンは、滑落しないようゆっくり慎重にアイゼンとピッケルでバランスを取って下降する。8合目の山小屋が近づき傾斜が緩んで来ると少しホッとするが、まだまだ気は抜けない。午後1時を過ぎると日が陰り、ツルツルの氷は硬度を増し、8合目から下は岩と氷のミックスの岩場が続く。

7合目の岩場下でようやくアイゼンをはずし、山頂から約3時間で5合目佐藤小屋に到着する。ここまで来ればもう何があっても大丈夫。佐藤小屋の温度計は $-4^{\circ}\text{C}$ を指しており、山頂は $-10^{\circ}\text{C}$ 以下だったかもしれない。

朝の登りで沢山いた登山者には下りでは殆ど出会わなかった。みんな途中で下山したのだろうか？そうかと思うと午後2時を過ぎて登って来るパーティーもいる。他人事ながら今晚はどこで泊まるのかと心配になってしまう。

他人の事はともあれ、5合目からは1時間で馬返しまで下り、愛車のヒーターでようやく少し体が温まる。下山後、溶岩の湯で温まると山頂から続いている。



富士火口と剣ヶ峰



7合目の岩場

た頭痛も治まり、ネットで見つけた「海の家」ではお目当ての「船盛り定食(1000円)」でお腹一杯お刺身を食べ、ノンアルビール(メニュー表では「こどもビール」)で祝杯を挙げる。

二十数年来の課題がようやく解決した余韻がとても心地良い。同行してくれた平ちゃんに心から感謝しつつ家路に就いた。

#### [感想]

絶好の好天とパートナーに恵まれ、冬富士のアイスバーンを克服し、無事山頂を往復する事が出来た。二十数年前のあわや滑落死の恐怖には一応の整理がついた。

また、一度やってみたいと思っていた馬返しからの日帰り往復も、今回の山行で実現する事が出来て二重の喜びである。

これからはいよいよ冬山シーズン到来となる。いきなり富士山のアイスバーンから始めてしまったが、やはり冬の富士山は厳しかった。

これから徐々に体を慣らし事故の無いシーズンにしていきたい。



8合目の下り

# 八ヶ岳・杣添尾根から横岳

平 真里



横岳山頂にて

山域：八ヶ岳

日程：12月22日～23日

メンバー：平、他1

いつもの2人で行ける手ごろなところ、ということで杣添尾根。雪の多いなか、女2人でラッセル、登頂は無理かも、とちょっと思っていたけれど。

## 12月22日(土)曇り時々雨

横岳登山口11:30---杣添尾根2,400m付近  
15:30

新幹線で大宮から佐久平、小海線で野辺山へ。駅にいたタクシーには、悪路のため乗車を断られて、別途電話でお迎えを頼む。横岳登山口付近は別荘地、かなり雪が深い。

予想していた通りトレースはない。雪は膝下くらいだったが、わかんを装着。気温が高いので雪は重たく、さらに解けた雪が落ちてくる。雨模様なので、合羽も着た。林道を何度か横切りながら、別荘地内を歩き、貯水地に出ると、登山道らしくなる。

展望らしいものはなく、先頭を交代しながらひたすら登る。このルートは、軽めの山雑誌『ワンダーフォーゲル』(昔のヤマケイJoy)に掲載されたばかり(それで2人で行けると思ったのだが)。記

事によると2,580m付近に平坦な場所があるらしいのだが、いっこうに高度があがらない。予定より下だが、荷物持ってあがる距離も少なく済むから、と言い訳して2,400m付近で幕にした。

## 12月23日(日)晴れ

杣添尾根2,400m付近06:30---三叉峰09:20---  
横岳山頂09:30---三叉峰10:00---2400m付近幕  
場11:20---横岳登山口13:30

ちょっと明るくなるころ出発したかったので、早めの起床。準備に手間取るうちに明るくなってくる。きょうはアイゼンをつけて登り始める。樹林帯のなかを昨日同様ラッセル。やはりわかんの方が良かったか。

時折、樹林が切れて景色がひらける。しかし、雪は吹き溜まり腰まで埋まる。何度も高度計を見ながら、ちまちま進む。と、2,600m付近で、単独の男性に追いつかれた。これぞ天の助け。ここから、1人増員でラッセルを交代しながら進むと、俄然スピードがあがる。稜線も見えはじめ、そろそろ雪



果てしない尾根

も浅くなる、と思うと激しく踏み抜いたりする。

稜線上に標識が見え始めた。11月に赤岳から硫黄岳まで歩いて、確認したところだ。最後の先頭を譲ってくれたので、謹んでお受けし、稜線上に立った。

思ったより時間が早い。すぐ先の横岳まで往復して写真撮影をし、三叉峰に戻る。心配な下りも、見かけより傾斜が緩く感じられ、樹林帯に入ってひと息。私たちのトレースで続々と人が登ってき

ていた。

幕場でテント撤収にかかるとポールが凍り付いていた。ひだまりを求めてひと休み。宿泊装備一式を背負うと、いまや踏み固められた下山路を一目散に下りた。タクシーを呼んで、温泉に行き、そこでいただいたロールケーキをほお張りながら、小海線を待つ。登れて良かった。



稜線から杣添尾根へ

# 年越山行越沢バットレス

桜井 弘

日程:2012年12月31日~2013年1月1日

メンバー:桜井

12月に鷹取山でクライミングをした時に平さんに上達しましたねと言われその気になって、今なら念願のJECCルートにトライできるのではないかなと思って越沢バットレスに向かった。

31日は前日の雨の為、壁はびしょ濡れで、右ルートを登攀しても、いつものスタンスに乗れずA0やアブミを使う有り様であった。しかし3回目には、慣れてきてフリーで登れる様になってきて面白くなってくる。

午後になると第2スラブが乾いてきたので、移動する。いつもはなんとなく登っていなかった第2スラブのコーナーにザイルを垂らしてトライするのだが、登れず、何度もザイルにぶら下がってしまう。1回だけ幸運にも登れたのだが、その後には又登れない。

日も暮れてきたので、右ルートの左の滑り台を2回登って、ビールを飲み下山し、大晦日の夜は白丸で車中泊であった。

元旦も当然、越沢には私以外誰もいない。今日は乾いている右ルートでウォーミングアップしてからJECCルートにザイルを垂らす。だが最初の5m以降、下をみても、恐怖感がわき、それより下に降りられない。仕方なしに、最初の5mを登ってもアブミを使う有り様であった。後から考えるとユマールもあるのだからと後悔した。

最後に鋸ルートを2回登って、下山する。

# 積雪期のマイナールートも楽しいワン U^ェ^U その 10 —ハヶ岳天狗岳東壁正面左尾根?の巻—

初鹿 裕康

日程:2013年1月12日~13日

メンバー:小堀、初鹿

<コースタイム>

1/12 晴 駐車場(10:37)---みどり池(12:07)---B.P(12:30)---2300m(15:11)---B.P(16:04)

1/13 快晴 (7:16)---2300m(8:57)---稜線(10:53)---東天狗岳(11:04)---2300m(11:42)---B.P(12:31)(13:23)---みどり池(13:35)---駐車場(14:29)

小堀さんがスタッドレスタイヤを購入。須玉の山小屋からリエックス経由で登山口へ。リエックス経由のほうが景色はいい。三連休とあって駐車場は、ほぼ一杯。みんなどこに登りに行くのだろう。つば足でゆっくり登ってみどり池。この先、本沢温泉の道を分け、その先の看板のところを左に入る。なんとなく道つばい跡に見えるが、昔の軌道跡らしい。つば足でズボズボと進んで平らなところでテントを張る。わかんを着けてとりあえず空荷で偵察兼ラッセル。ちょっと行ってくるつもりが、なかなか場所がわからず、右往左往しながら標高を上げて行く。この時期は表層雪崩が怖いので基本的にはあんまり右の沢の方に寄らず樹林の中の稜線らしきところを登って行く(要するに右側の沢の方に入り込まないようにする)。樹林の中なので、視界が利かず現在地がなかなかわかりづらい。せめて現在地がある程度わかるところまで、標高を上げていって、時間との兼ね合いで右側下部に沢状の所が見え、木々の間から第二岩峰が見えるところまで登って下降とする。

戻って乾杯。寝る間際は結構寒かったが、夜のほうが気温が高くなったようだ。外は満天の星。

翌日は快晴。ハーネス着けて出発。昨日のラッセルから先をさらに進み、ストックからダブルアックスに変え、右から上がってきている、ちょっとした細いルンゼを越えて左上すると(ここのルンゼが雪崩そうでちょっと怖かった)、だだっ広い雪原に出る。右に長くトラバースすると右尾根。右尾根登つ

ても面白くなさそうだよ」と、小堀さんは左の方を登って行く。ここからトラバースして右尾根の取付までは、この時期だとちょっと怖いかも。左尾根(?)を高度を稼ぎながらラッセルして行くと、稜線の登山道が見えてくる。稜線へ出る所が一番急角度か。こちら側に雪庇が出ているが、最後の所はちょっとしたガレた岩場になってる所から登山道に抜ける。東天狗の左側に出て、登山道と合流。稜線は風が強い。面倒なのでわかんのまま頂上へ。結局ザイルは使わなかった。風が強いので写真だけ撮って、同ルート下降。最初の降り口だけバックステップで下る。さっきのルンゼは下りだとあっさりと下れる。後はあっという間にテン場に戻ってしまった。中山峠經由より遥かに早いです。下部のルートファインディングに自信があれば、天狗岳からの下降路に良いルートかも。

明日から天気が悪くなるので今日中に下山とする。下りはアイゼンで下る。甲斐大泉温泉に入って、須玉の山小屋に戻ってまた乾杯。

人のトレースのない未知のルートはやっぱり楽しい。登れば充実感抜群。右尾根が残っているので、春にまた行きましょう。右尾根は上から見るとちょっと岩チックにも見えたが、登ってみればあまりクライミング要素はないかもしれない。

翌日朝目覚めたら大雪。中央道が通行止めになるまでに何とか突破して帰れました。山中泊しなくて良かった!(^^)!

# 子連れハイク (12ヶ月~15ヶ月)

大平山山頂からの富士山。



2012年10月9日/大平山(1295m)

## - 子連れハイクNo.8

メンバー:初鹿、市瀬、他1

コースタイム: 大平山ハイキングコース入り口(11:30)---大平山山頂(12:40)

富士山に見える山に登りたくなり、子供背負って行ける場所を探した結果、大平山を見つけた。山中湖半にあり、眺めも良いと地図上に記載されているので、早速行ってみることにした。

湖畔にある親水公園の無料駐車場に車を止め、背負子に子供を乗せる。暫く湖畔に沿って歩き、湖北のバス停から林道に入っていく。ペンションの脇を通り過ぎ、10分ほど歩くと、大平山ハイキングコースの看板がある。ここから登山道となるが、あまり人が入っていない感じで、踏み跡も途中不明瞭で歩きづらくなる。子供は、既にこの時点で、背負子を拒否して泣き叫び、結局、ウエストポーチに座らせ、抱っこする形で、連れて行く。急な箇所を暫く登ると、立派な林道が出てきた。い

## 市瀬 江利子

子供はあっという間に一歳になりました。振り返れば、いろんな方のご協力のもと、結構山に登った一年でしたが、最近、意思表示が激しく、背負子でのハイクも、なかなか厳しい状況になってきました。。。

ったいどこから続いている林道なんだろう？と話しながら登って行くと、視界が開け、程なく、大平山から石割山へと続く稜線に出る。ここから、左手に伸びる階段を上りきると大平山の広い山頂へ到着する。富士山が真正面に見えて、広々としていて、気持ちのいい山頂だ。ここまで1時間かかったが、長い休憩などしているの、普通に行けば1時間もかからないはず。

ここでお弁当を食べて、のんびり過ごし、復路は林道をずっと辿ってみることにした。すると、別荘地への道へと繋がっていた。行きより一本西側の道へ出た感じで、さらに下っていくと、親水公園のトイレ脇に出た。このルートから登る場合は、かなり急な別荘地の舗装路を登らなくてはならず、林道への入り口もわかりづらいので、やはり通常のルートが良いようです。親水公園から見る富士山はなかなかでした。

2012年10月27日/八重山

## - 子連れハイクNo.9

メンバー:初鹿、平、市瀬、他1

コースタイム: 登山口から山頂まで一時間かからない程度

近場の山を探したつもりが、中央道の事故渋滞で上野原インター手前から一般道を走る羽目になる。しかも、当然下も混んでいて、結局新宿から



八重山山頂。おお泣きです。。

4時間もかけて到着。近くて遠い山でした。

さて、山自体は、最近整備されたハイキングコースってな感じで、パーキングも、トイレも綺麗でした。

富士山が見えなかったのが残念。背負子に乗りたがらない子供を連れて行くには丁度いい山でした。

### 2012年11月14日/高尾山

#### - 子連れハイクNo.10

メンバー:市瀬、他2

一年に一回くらいは家族で山に行こうと高尾山に行くことにした。紅葉の季節だが、平日なので、それほど混んでいないだろう、と思ったのが甘かった。駐車場はどこもいっぱい、何度も往復するはめに。ケーブルカーも、登山道も、人、人、人。。。しかし、ケーブルカー下と山頂の紅葉は綺麗でした。帰りは高尾駅前まで目に留まったイタリアンで窯焼きピザを食べてみる。ここのピザが美味しいという書き込みがあったので、多少並んでも食べてみたが、かなり美味しかった！！二人でピザ3枚、パスタ一皿をペロッとたいらげてしまった。でも、お値段ちょっと高めです。



高尾山 / 久々に見る真っ赤な紅葉

### 2012年11月25日/江東シーサイドマラソン

去年は死にそうになって走った10キロ。今年も同じじゃ芸が無いなと思い、ハーフに申し込んでしまった。が、体はなかなか思うように絞れず、不安な中、当日まであと三週間。とにかく、一度皇居を3周は走ろうと思った。3周目を回り、もう駄目だと思ったのに、なぜか4周目に突入し、結局止まるきっかけがなく、走ってしまった。その日は疲労が激しく、帰るのも大変だったが、とりあえず、ハーフは走れると自信につながった。

これが良かったのか、当日は、とにかく完走を念頭に走り、去年の10キロよりも、気持ち的には楽に走ることができた。記録は以下の通り。達成感でちょっと幸せな気分になりながら、小堀さん、はっちゃんと、築地で銭湯に入り、もんじゃ焼きを食べて、帰りました。

ハーフ一般女子

タイム:2時間10分50秒

210位/363人

### 2012年12月1日/プリムラ祭

高齢の、じゃなくて、恒例のプリムラ祭。今年はきりたんぼ鍋をみんなで作ってみました。みんな、わきあいあい、仲良さそうです。



江東シーサイドマラソン / 完走できて幸せなひと時。



プリムラ祭 / 楽しそううちの女性陣



プリムラ祭 / 奥で一人奮闘中の佐藤さん



プリムラ祭 / きりたんぽ職人たち

2012年11月14日/御岳山

## - 子連れハイクNo.11

メンバー:初鹿、市瀬、他3

プリムラ祭の翌日。八ヶ岳並みの寒さの中、御岳山に登ってきました。ここは坂も多く、もはや抱っこも嫌がる子供を抱えての登山は大変でした。階段が多いので、歩かせることができず、始終かかえっぱなし。帰りはケーブルを使わず、子供は抱っこ紐(抱っこ紐のほうが密着しているので、嫌がらなかった)でおんぶをして、歩きで下りました。この下りは歩きやすく、雰囲気も良くグッドです。



こんな感じ。もう背負子に乗ることは無いのか。。。

# 景色を見ながら！

初鹿 裕康

## OSJハヶ岳スーパートレイル100マイルレース

朝5時。スタート直前ザックのチャックが壊れた。なんとかシュリングで縛って出発。荷物も落ちないように、ヘッドン着けて普通に飛ばす。最初のエイドにはスポーツドリンクやパンなどもあり、ちょっといい感じである。前日の前夜祭で、エイドの食料は結構あるようなことを言っていたが、幸先良い。トイレによって、気持ちよく先に進むことにする。が、途中のなんでもない林道でこけて膝と肘をすりむく。血を流しながら進む。2個目のエイドでは水とミニトマトがある。まだまだ先は長い。3個目のエイドには水と塩だけ。ここから結構な長い林道の登り。さらに山の中のトレイルが嫌がらせのように激しい登り下り。天女山のエイドでハイドロシステムの水筒に水を入れる。後から来た人には水もないような感じだった。さすがOSJの大会。だんだんものがなくなってくるぞ…。でも、ないならないって最初から言っただけ。前夜祭の話(何とかエイドは食べ物があるのか)を鵜呑みにしたのが馬鹿だった。いつも通っている美しの森駐車場を過ぎると清里の関門。バナナを食べ、パワーバーを3個程忍ばせる。ここから飯盛山への登りとなる。この辺の紅葉は美しい。山だけは綺麗だ。登りの陽だまりでは数名の選手が昼寝？をしている。飯盛山下のエイドではスタッフのおつまみの残りが置いてあったのみ。ひどいな。

野辺山で半袖の下に長袖を着て、蕎麦屋でおやき2個と缶コーヒーを買って飲む(かけそばを注文している選手もいる)。人心地着いた。しかし途中で買い食いするレースってどうよ(ここで選

手同士の会話。21:30には松原湖についてないと制限時間に間に合わないみたい。)ここから先はしばらく山の中になる。登りなのでほぼ歩いていく。エイドが8km下に下りてきているという。72km地点とか。これなら21:30には間に合いそう。しかし、しばらく行くと70km地点の看板。かなりショック。このあたりからリタイアが頭をよぎるようになる。途中で雨具を着る。かなり冷え込んでる感じ、ハイドロも凍り付いていないだろうか。

林道の走りなのだが途中座り込んでいる選手がいる。死んでしまわないだろうか？？なんせ、選手回収のスーパーがほとんど現れない。大丈夫かな、このレース。

時間も刻々と過ぎて行き、モチもだいぶ下がってどうにか22時過ぎに松原湖。ここで暖かい味噌汁をゲット。ついうっかり焚き火の前の椅子に座ってしまったのが、運の尽きだったかも。焚き火を離れるとあまりにも寒く、先に進むモチベーションをなくしてしまった。行こうか行くまいか躊躇するが標高差1000mの登りを1時間5kmでこの先進んでいけるのか？大河原峠は氷点下10度らしい。ハイドロに水を汲む気力もすっかりなくなってしまう。役員に、「ここでやめたらどうなりますか」と聞くと「23時にバスが出ます」とのこと。リタイアを告げ、チップを渡したとたん身体が震えが止まらなくなった。

ちゃんとした山だったならもう少しいろいろ考えて装備持ってくるけど、レースだからなあ。後でネットを見ていたらトレイルランニングのレースは自己責任とか書いてあった。金払って自己責任はないだろう。

でも、佐渡に次いでまたリタイアしちゃったの、  
つてのが世間の目です。リタイアはBIKEトラブ  
ルで過去に一回あっただけだったんだけどなあ。

11/3 OSJ八ヶ岳スーパートレイル100マイルレース  
出走510名、完走138名(完走率27.05%)  
DNF初鹿裕康 第1関門(54km地点)8時間32分01秒  
第2関門(94km)17時間07分03秒 リタイア  
DNF佐藤正俊 第1関門 9時間31分18秒リタイア

僕の第2関門の到着時間よりちょっと早く出発  
した人がぎりぎりゴールしていた。僕より後出  
発は誰もゴール出来ていなかった。完走率27%  
って、レースじゃないじゃん。ちなみに同時開催  
された100kmレースも完走率29.33%。さすがに  
来年は9月頃の開催になるらしい。さすがに失敗  
でしょ。この時期のこのレースは。

### 第32回江東シーサイドマラソン大会

月初に上記レースで100kmまとめて走ってい  
るので、どうも筋肉が重い気がする。皇居でもあ  
まりに速く走れないのでショックである。

何にも出来ないままレース会場に到着。今年は  
プリムラのエントリー少ない。調子があまりあが  
らないので、1kmラップを4分20に設定。小堀さ  
んが当日応援にまわってしまったので、ERIKOと  
2人になってしまった。小堀さん出ないなら4分  
25で良いや。前の方に並んでスタート、走り出す  
がどうもふくらはぎが重い。最初の1kmはほんと  
に4分24で、かなりショック。4分切って走ってい  
たこともあったのに…。しかも身体が重い。イメ  
ージでは10秒台で走れている感じだったの  
に…。ちょっとした登りが非常に辛い。それでも  
最初の5km位は25秒を守って走れたが、だんだ  
ん辛くなってくる。10kmまでは何とか30秒強で  
走り、前半は10km45分03。後半も身体が重いこ  
とは重い、汗をかいてちょっと快調になってく  
る。それでも35秒位を何とかキープ。でもやっぱ

り登りは辛い。あまりラップが上がらないせいか、  
意外と1kmごとの看板が近く感じる。それだけ辛  
い走りをしていないのだろうが、なんせ身体が動  
かない。速く走れないよ。それでも最後の3km位  
は今年もこれで終わりかあと、思いながら楽しく  
走れた気がする。

何とか35分台でゴールしたいが、最後の1km  
で10kmレースの最後のほうのやる気のないラン  
ナーが邪魔。結局1時間36分5秒だった。順位は31  
位だった。去年より41秒遅れで順位は2位上がっ  
た。今年もまたコースが変わっていて、ちょっと去  
年より走りにくかったかもね。今年の最後リタイ  
アしなくてよかった…。

11/25第32回江東シーサイドマラソン大会

★ハーフ壮年男子の部★

出走者数:558名 完走者数:535名

31位 初鹿裕康 1時間36分05秒

☆ハーフ一般女子の部☆

出走者数:363名 完走者数:335名

210位 市瀬江利子 2時間10分50秒

壮年男子15位入賞の為には1km4分16秒で走  
れば…。昔は走れた…。

今年は結局参加者2人。来年は皆で出ましょ  
うね。帰りは銭湯と月島もんじゃで。

去年はトレーニングジム143日、スイミングス  
クール29日、山73日、レース6日。RUNがほぼ週1  
回+月1回の皇居で60日くらい+α?。あとは多  
少どっかのプールで泳いだか。残りは何やってた  
んだろ…。

# なほみさんのいつまでやってんだ

## クライミング日記 もはや病み上がりではない (1)

水野 奈保美

### 9月のこり

#### 9/29-30 大ヤスリ→廻り目

土曜日：初鹿・小堀

- ・9時出〜取り付き 11時40分ごろ
  - ・大ヤスリの頭 14時頃？
  - ・15時取り付き
  - ・瑞牆山荘 16時半ごろ→5時少し杉ナナーズ
- ナナーズで平・佐藤と合流、廻り目平へ  
大ヤスリは思った以上に楽しかった。相変わらず  
トップにたつと「後もう少し」のところにボルト  
とか、スリングとかにだまされてピッチを切っ  
てしまう。(まだまだやね〜) 今回2人で行くつ  
もりが天気との兼ね合いで急遽3人になったの  
も、ある意味良かったところもあった。

日曜日：台風接近とのことなので、午前中に帰途  
に着く。自宅着 12時。

### 10月

#### 主な出来事

- (1)やっぱり iPhone5 を買ってしまう  
(2)お師匠 GF (ガールフレンドではないよ)
- 第1週**：3連休で明星の予定だったが天気悪く→  
転進→城山：やっぱり暑いでしょしかも 1日 SWEN  
だし。久々に南裏さんに会えたからいっか。with  
桜井 西本 (P 村山の会)
- 第2週**：3連休明けに師匠が GF 緊急入院、肋骨  
8本骨折。しかし4日で追い出され週末退院。さ  
すがに動けないので、介護。おでかけなし。
- 第3週**：お師匠、近所を散歩できるくらいに回復  
したので、日帰りで廻り目に行く with M 川、癒  
しの左岸スラブ。
- 第4週**：ベースキャンプへ行く with M 川。

### 11月

#### 主な出来事

(1)風邪ひいた

(2)花崗岩シーズン閉幕→城ヶ崎へ (気、重)

**第1週**：連休なのに風邪ひいてダウンぬ。咳し  
ぎて吐きそうになった週末だった苦。

**第2週**：久々末端壁 (日帰り) with O 山現地で  
いつもの人達。薄曇りで寒くてもうこれは終わり  
かな、と。

**第3週**：久々末端壁 (日帰り) with O 山現地で  
いつもの人達。天気は良かったけどずっと寒く  
てもうこれは終わりだね、と。

**第3週**：さすがに城ヶ崎へ (土日) with O 山現  
地でいつもの人たち+ジェームス。やっぱ城ヶ崎  
は暖かい。登れないけどぬ。

さて次週からは 12 月。よていは

第1週：プリムラ祭 この寒いのに天王岩

第2週：城ヶ崎予定だが、アイスもいいな

第3週：城ヶ崎予定だが、アイスもいいな

第4週：城ヶ崎予定だが、アイスもいいな

第5週：年末年始、高知に行きたい。のなら、ア  
イス行ってる場合じゃねえな。

の5本です。セーの、じゃん、けん、ぽんつ。う  
ふふふつ (サザエさん)

### 12月

**第1週**：12/1-2 プリムラ祭於山田橋キャンプ場  
12/1 天王岩 お師匠、現地で平・佐藤

8時に五日市駅とか言ってるが寒いから適当にお  
師匠に送ってもらうつもりがお師匠も登りに行く  
というので 10時くらいにのんびり行き、下の岩  
1,2本登ってると雨が降って北。平佐藤は瀬音の  
湯へ行くというが、私は一足先にガンバローに行  
って1杯飲もう魂胆だったが、あまりの寒さに足湯  
だけ行く。自分の分だけ酒を買いガンバローで平  
沢かけてひと暴れたあと昼寝。

**第2週**：12/8-9 お誕生日おめでとうございます  
(予測変換)



12/8 城ヶ崎 いつもの人たち+ジェームス  
12/9 城山 変則メンバー：U ち田 O く山  
久々にオレンジ村にとまる。今回秋に末端壁で会ったツヨツヨ豪人ジェームスもいっしょ。すごく日本語がうまいので気遣いなし。お誕生日当日は城山に行く。とても混んでいたのと、登れるところがないのと、寒いとで、ヤル気がまったくなく、三間バンドへ行行ってほとんどお昼寝してすごす。M 代さんに「やる気のある水野さん見たことない」と言われて一瞬ムッとするが、そういえばそういう芸風だったのを思い出す。(ヤル気があった時もほんの一部あるんだけどな)

**第3週：**12/16 が出勤だったのでへろへろしてすごしていたのではないだろうか。更年期に悩む婆さんはなににもないと一日じゅう寝ている。

**第4週：**12/22-24 クリスマス休暇はオレンジ村  
12/23・24 城ヶ崎 (オーシャン→日蓮、日蓮) いつもの人たち+久々のF 沢カブルT 井ご夫婦  
なんだか人多いんだけど。静かにしょぼいプレイ、じゃなくてトライをしたいのに。しかも24日なんて寒くて小雪でガストでいいおじさんお婆さんがスマホいじりだぜ。いや、ヨも末だね。でも戻って日蓮行つたよ。登れなかったけど。1日目にインディアンドールが50テンくらいしてトップアウトしたので気をよくしていたら、翌日はまったくのぼれなかった。いつものことだね。

**第5週：**12/29-30 これはこれからなのだ。たぶん、天気悪いから31日くらいに日帰り城ヶ崎だ

ね。あ、ちなみに王道海岸は次回ですわ。ごんねん。もう少し登れるようにならないとね。  
みなさん良いお年をね、と日記には書いたが実際は年末まで仕事して、な〜んにもしないで年を越し、ちょろっと高尾山登って年明けに実家に帰って猫の子供をもらってきたのであった。

## 1月

**第1週：**1/5 出勤だったので、職場にいと、K 島から剣で遭難してるのM 川さんじゃね？などと電話をもらう。ココロ穏やかでない。といいつつ、ジムにいていうので合流してぼろダる。…結局M 川さんパーティーは帰らぬ人たちになってしまい、しばし何も出来ずじまいとなる。で、ようやくクライミングに行こうと思えたのは3週目から。

**第3週：**1/19 城ヶ崎

オーシャン→日蓮 久しぶりに静かな日蓮。

1/20 景信山

もちつき

**第4週：**1/26 城ヶ崎

オーシャン→日蓮 久しぶりに静かな日蓮その2。駐車場にはクライマーは他にいず、釣り師も少なかった。私達を残して人類が滅亡してるかもと思った。

1/27 出勤。いじょー。

## 山行一覽

2012 年 9 月 22 日～12 月 16 日

| No.  | 山行日         | 山域   | ルート                 | 参加者               | 区分   |
|------|-------------|------|---------------------|-------------------|------|
| 3159 | 9/22～9/23   | 北ア   | 錫杖岳                 | 桜井・西本             | バリ   |
| 3160 | 9/22～9/23   | 奥多摩  | 泉水谷・小室川谷            | 小堀・初鹿             | 沢    |
| 3161 | 9 月 29 日    | 奥秩父  | 瑞牆山・大ヤスリ岩           | 小堀・水野・初鹿          | バリ   |
| 3162 | 9 月 29 日    | 奥秩父  | 小川山                 | 佐藤・平              | フリー  |
| 3163 | 9 月 30 日    | 西上州  | 子持山                 | 桜井・西本・他 1         | フリー  |
| 3164 | 10/6～10/7   | 南ア   | 甲斐駒ヶ岳（黒戸尾根）         | 小堀・佐藤・平           | 登山   |
| 3165 | 10 月 7 日    | 伊豆   | 城山                  | 桜井・水野・西本          | フリー  |
| 3166 | 10 月 7 日    | 奥多摩  | 青梅丘陵                | 初鹿                | トレラン |
| 3167 | 10 月 8 日    | 湯河原  | 幕岩                  | 桜井・水野・西本          | フリー  |
| 3168 | 10/8～10/9   | 八ヶ岳  | 夏沢峠～硫黄岳             | 岡                 | 撮影山行 |
| 3169 | 10 月 9 日    | 御坂   | 大平山                 | 初鹿・市瀬・他 1         | ハイク  |
| 3170 | 10 月 13 日   | 西上州  | 荒船山                 | 平・他 1             | ハイク  |
| 3171 | 10 月 14 日   | 奥多摩  | 越沢パトレス              | 桜井・小堀・初鹿・西本・平・他 1 | 岩トレ  |
| 3172 | 10/20～10/21 | 奥秩父  | 東沢釜ノ沢東俣             | 北原・他 1            | 沢    |
| 3173 | 10 月 20 日   | 上越   | 越後駒ヶ岳               | 平・他 1             | ハイク  |
| 3174 | 10 月 20 日   | 八ヶ岳  | 権現岳                 | 小堀・佐藤             | トレラン |
| 3175 | 10 月 20 日   | 御坂   | 三ツ峠                 | 西本・他 5            | 岩トレ  |
| 3176 | 10/20～11/09 | ネパール | ネパール・アンナプルナ山群       | 岡・他多              | 撮影山行 |
| 3177 | 10 月 21 日   | 奥多摩  | 越沢パトレス              | 小堀・佐藤・桜井          | 岩トレ  |
| 3178 | 10 月 21 日   | 奥秩父  | 小川山                 | 水野・他              | フリー  |
| 3179 | 10 月 21 日   | 奥多摩  | 青梅丘陵                | 初鹿                | トレラン |
| 3180 | 10 月 23 日   | 西上州  | 九十九谷右岸尾根            | 初鹿・市瀬             | バリ   |
| 3181 | 10 月 27 日   | 中央線  | 上野原・八重山             | 初鹿・市瀬+1・平         | ハイク  |
| 3182 | 10 月 27 日   | 西上州  | 太刀岡山                | 西本・他 2            | フリー  |
| 3183 | 10/27～10/28 | 北ア   | 明星山左岸稜              | 佐藤・他 3            | バリ   |
| 3184 | 11 月 3 日    | 八ヶ岳  | 八ヶ岳スーパートレイル 100 マイル | 初鹿・佐藤             | トレラン |
| 3185 | 11 月 3 日    | 湯河原  | 幕岩                  | 桜井・西本             | フリー  |
| 3186 | 11/3～11/4   | 南ア   | 北岳                  | 平・他 1             | 登山   |
| 3187 | 11 月 4 日    | 伊豆   | 城山                  | 桜井・西本             | フリー  |
| 3188 | 11 月 10 日   | 御坂   | 富士山                 | 佐藤・平              | 雪山   |
| 3189 | 11 月 10 日   | 西上州  | 子持山                 | 西本・他 2            | フリー  |
| 3190 | 11 月 10 日   | 奥秩父  | 瑞牆山・十一面末端壁          | 水野・他 1            | フリー  |
| 3191 | 11 月 14 日   | 奥多摩  | 青梅丘陵                | 初鹿                | トレラン |
| 3192 | 11 月 14 日   | 道志   | 高尾山                 | 市瀬・他 2            | ハイク  |
| 3193 | 11 月 18 日   | 奥秩父  | 瑞牆山・十一面末端壁          | 水野・他 1            | フリー  |
| 3194 | 11 月 24 日   | 伊豆   | 城ヶ崎                 | 水野・他 1            | フリー  |
| 3195 | 11/24～11/25 | 上越   | 谷川岳・一ノ倉沢            | 岡                 | 撮影山行 |
| 3196 | 11 月 25 日   | 八ヶ岳  | 赤岳・横岳・硫黄岳           | 平・他 1             | 雪山   |
| 3197 | 11 月 25 日   | 奥多摩  | 越沢パトレス              | 桜井・西本・他 1         | 岩トレ  |
| 3198 | 11 月 28 日   | 丹沢   | 広沢寺                 | 初鹿・市瀬             | 岩トレ  |
| 3199 | 12 月 1 日    | 奥多摩  | 天王岩                 | 水野+1・佐藤・平         | フリー  |
| 3200 | 12 月 2 日    | 奥多摩  | 御岳山                 | 初鹿・市瀬・他           | ハイク  |
| 3201 | 12 月 8 日    | 湯河原  | 幕岩                  | 西本・佐藤・他           | フリー  |
| 3202 | 12 月 8 日    | 奥多摩  | 青梅丘陵                | 初鹿                | トレラン |
| 3203 | 12 月 9 日    | 三浦半島 | 鷹取山                 | 桜井・西本・初鹿・平        | フリー  |
| 3204 | 12 月 9 日    | 奥多摩  | つづら岩                | 小堀・佐藤             | 岩トレ  |
| 3205 | 12 月 14 日   | 御坂   | 三ツ峠                 | 岡                 | 撮影山行 |
| 3206 | 12/15～12/16 | 八ヶ岳  | 天狗尾根（敗退）            | 佐藤・平              | バリ   |
| 3207 | 12 月 16 日   | 上州   | 赤城山                 | 岡                 | 撮影山行 |
| 3208 | 12 月 16 日   | 三浦半島 | 鷹取山                 | 桜井・西本             | フリー  |

# 山行一覽

2012 年 12 月 16 日～2013 年 1 月 20 日

| No.  | 山行日         | 山域   | ルート          | 参加者          | 区分   |
|------|-------------|------|--------------|--------------|------|
| 3209 | 12 月 16 日   | 奥武蔵  | 物見山～日和田山     | 初鹿           | トレラン |
| 3210 | 12 月 16 日   | 上州   | 赤城山・地蔵岳      | 岡            | 撮影山行 |
| 3211 | 12 月 20 日   | 八ヶ岳  | しらびそ小屋       | 岡            | 撮影山行 |
| 3212 | 12 月 21 日   | 信越   | 神津牧場・物見山     | 岡            | 撮影山行 |
| 3213 | 12/22～12/23 | 日光   | 半月山          | 初鹿・西本        | 雪山   |
| 3214 | 12/22～12/23 | 八ヶ岳  | 杣添尾根・横岳      | 平・他 1        | 雪山   |
| 3215 | 12/23～12/24 | 伊豆   | 城ヶ崎          | 水野・他         | フリー  |
| 3216 | 12/23～12/24 | 信越   | 霧積温泉／春日溪谷    | 小堀・佐藤・小田・他 1 | アイス  |
| 3217 | 12/26～12/27 | 八ヶ岳  | 天狗岳          | 大坪・初鹿        | 雪山   |
| 3218 | 12 月 27 日   | 八ヶ岳  | 北横岳          | 岡            | 撮影山行 |
| 3219 | 12 月 28 日   | 八ヶ岳  | 黒百合ヒュッテ      | 岡            | 撮影山行 |
| 3220 | 12/29～12/30 | 八ヶ岳  | 赤岳鉱泉・裏同心ルンゼ  | 小堀・佐藤        | アイス  |
| 3221 | 12/29～1/1   | 奥秩父  | 雁坂峠・雁坂嶺      | 平・他 1        | 雪山   |
| 3222 | 12/31～1/2   | 南ア   | 日向八丁尾根・大岩山まで | 初鹿・山里・西本     | 雪山   |
| 3223 | 12 月 31 日   | 奥多摩  | 越沢バットレス      | 桜井           | 岩トレ  |
| 3224 | 1 月 1 日     | 奥多摩  | 越沢バットレス      | 桜井           | 岩トレ  |
| 3225 | 1 月 2 日     | 三浦半島 | 鷹取山          | 桜井・他 1       | フリー  |
| 3226 | 1/3～1/4     | 上州   | 赤城山          | 岡            | 撮影山行 |
| 3227 | 1 月 4 日     | 南ア   | 入笠山          | 初鹿           | 山スキー |
| 3228 | 1 月 5 日     | 上州   | 赤城大滝         | 岡            | 撮影山行 |
| 3229 | 1 月 5 日     | 上越   | 神楽峰          | 北原・佐藤・他 1    | 山スキー |
| 3230 | 1/5～1/6     | 伊豆   | 城山           | 桜井・西本        | フリー  |
| 3231 | 1 月 7 日     | 那須   | 茶臼岳          | 岡            | 撮影山行 |
| 3232 | 1 月 8 日     | 日光   | 雲竜溪谷         | 岡            | 撮影山行 |
| 3233 | 1/12～1/13   | 八ヶ岳  | 天狗岳東壁        | 小堀・初鹿        | バリ   |
| 3234 | 1/12～1/13   | 奥秩父  | 小川山          | 平・他 1        | 雪山   |
| 3235 | 1 月 19 日    | 上信   | 根子岳          | 初鹿・山里・市瀬・佐藤  | 山スキー |
| 3236 | 1 月 19 日    | 奥武蔵  | 名栗河又         | 平・他 4        | フリー  |
| 3237 | 1 月 20 日    | 三浦半島 | 鷹取山          | 桜井・西本・小田     | フリー  |
| 3238 | 1 月 20 日    | 八ヶ岳  | 湯川           | 佐藤・他多        | アイス  |
| 3239 | 1 月 20 日    | 道志   | 景信山          | 初鹿・山里・水野・他   | ハイク  |

山登りにプライドはいらない。フリークライミングやアイスクライミングをスポーツ的にやるのなら、プライドは必要かもしれない。だけど、普通の山登りならプライドはいらない。自然と遊ぶのならのらやっぱり謙虚にならなけりゃ、楽しくないもんね。プライド【pride】誇り。自尊心。自負心。大辞林よりやっぱいらんでしょ。(H)

1 月、私自身の課題だった小川山にやっと登った。行き慣れた廻り目平キャンプ場は閑散として、雪はないが地面は凍りついている。いつのかわからないトレースを辿って、密集した樹林をくぐり山頂へ。もう二度と来ないかも、と展望のない山頂で、標識の証抛写真を何枚も撮った。もう気になる山ではなくなって少し寂しい・・・かも。(T)

サボリ癖がちらほら例会行かない時にしなかった山行報告（一覽用）面倒なので申請してないの結構あるね。まあどうせ同じ所に行ってグダグダしてたりするもんでね。最近はルートも同じのしか登ってないから。あと、写真ファイル名に日本語使わないでね！文字化けすることがあるんで。おねがい増田。(M 野))